

沖・沖団地 地区防災計画

倉敷市真備町服部 沖・沖団地
令和4年12月26日

目次

1 基本方針(目的)	1頁
2 計画の対象地区	1頁
3 沖・沖団地の特性及び想定される災害リスク	..	2頁
4 大雨・台風の時、どうすればよいか?	4頁
5 防災情報の入手先	6頁
6 地震の時、どうすればよいか?	11頁
7 避難する場所	13頁
8 各家庭での日頃の備え	15頁
9 緊急連絡網	17頁
10 防災訓練	17頁

1 基本方針(目的)

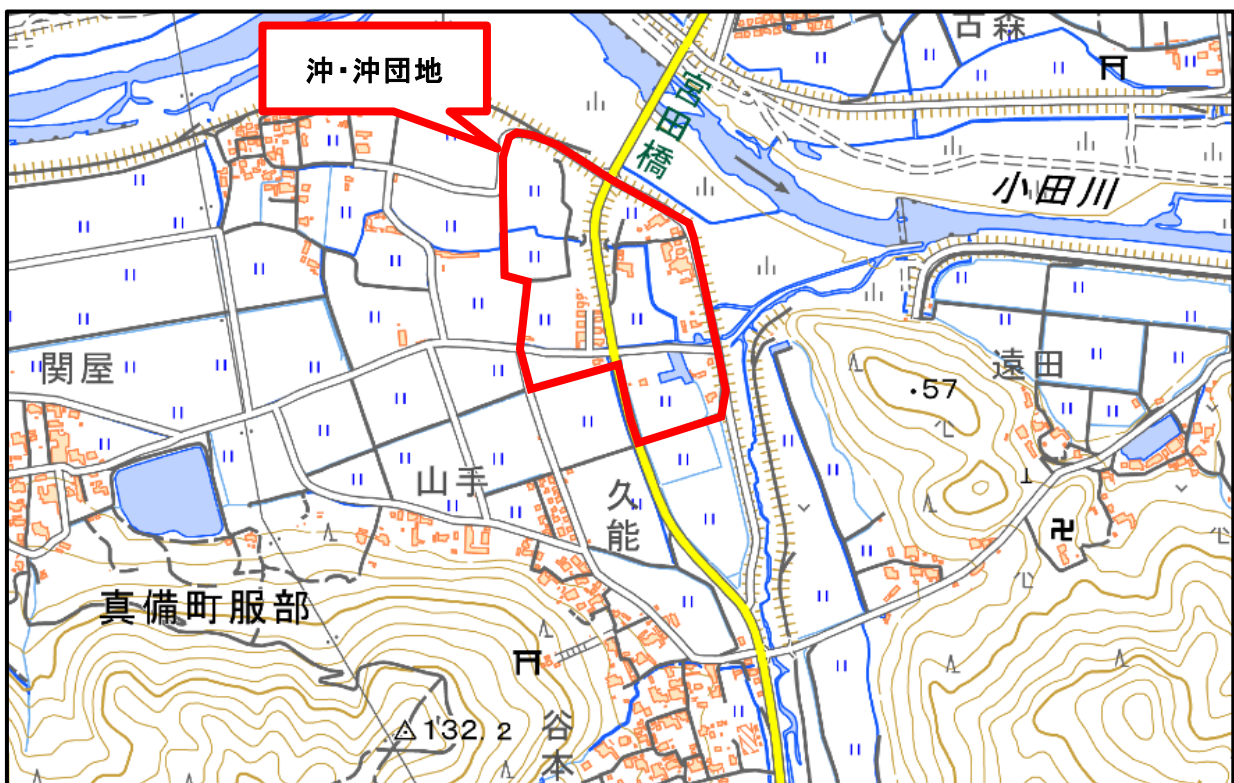
「自らの命は自らが守る意識を徹底し、住民一人ひとりが避難行動を実行する。」の基本方針のもと、次の3つの行動について、地区の住民で協力し、継続して取り組みます。

- 1 災害が「いつ」、「どこで」発生しても、自らの命は自らで守れるよう、日頃から住んでいる地区や勤務先・通学先などの**災害リスクを把握するとともに、避難先や避難経路、避難方法を確認しておく。**
- 2 災害時の避難行動につながる防災気象情報や避難情報を「いざ」という時に自ら利用できるよう、**日頃から情報収集の方法を確認しておく。**
- 3 入手した防災気象情報、避難情報及び地区の被害状況などは、**地区の住民同士で共有・伝達し、自らの避難行動や避難の呼びかけに活用できるよう日頃から住民同士で確認しておく。**

2 計画の対象地区

対象地区：倉敷市真備町服部 沖・沖団地 10世帯

【図1】区域図(赤色の実線内が対象地区)



3 沖・沖団地の特性及び想定される災害リスク

地区の北には小田川、東には真谷川、南には弥高山と川と山に囲まれており、すぐそばには用水路が流れています。

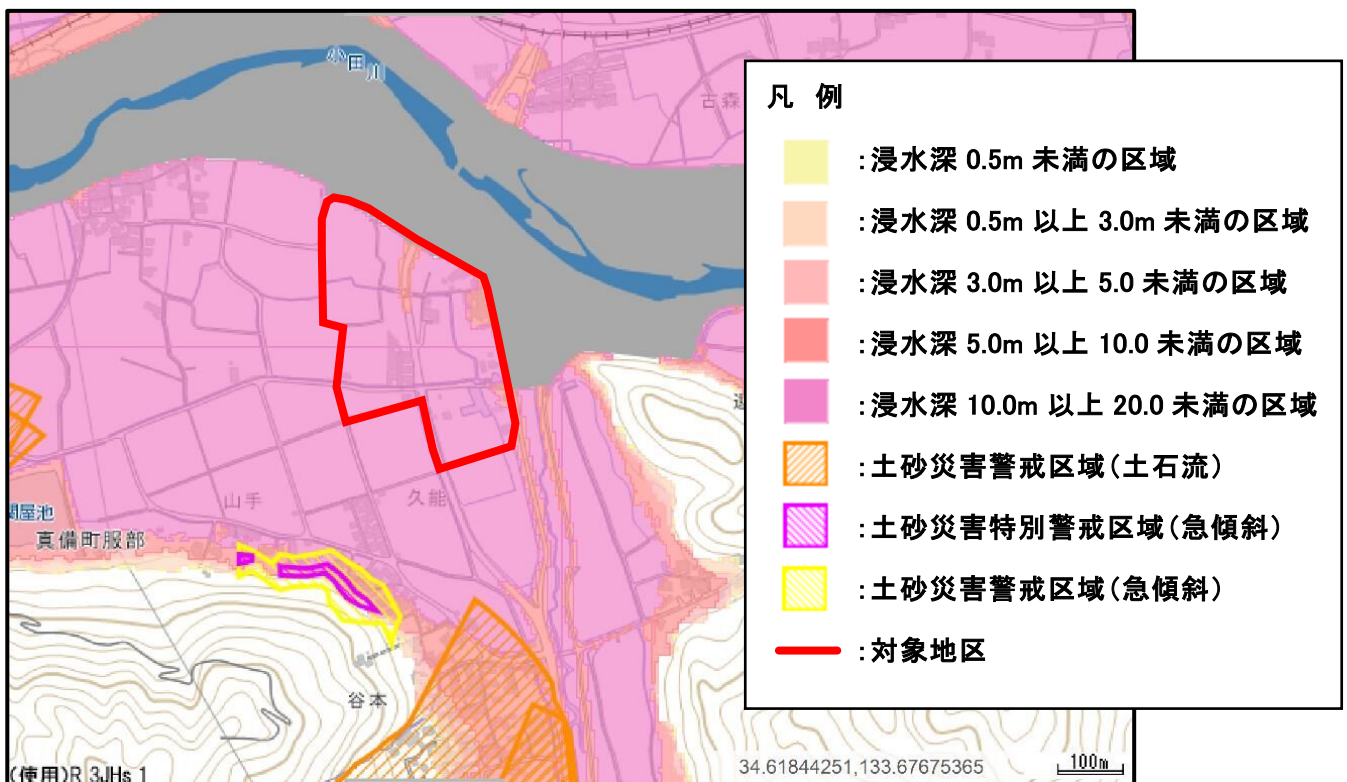
大雨時には、用水路からの内水氾濫や小田川、真谷川の氾濫・堤防決壊による住宅浸水被害の危険性があり、洪水浸水想定区域図(想定最大規模降雨)では、浸水深10m以上20m未満と想定されています。

事実、昭和51年には用水路の氾濫で住宅が床下浸水し、平成30年7月豪雨災害では真谷川の堤防決壊により住宅が2階まで浸水する被害を受けました。

なお、土砂災害の危険性はありません。

また、南海トラフ巨大地震が起きた場合、震度6弱の揺れが発生する危険性があると同時に、液状化現象による住宅被害が予想されます。

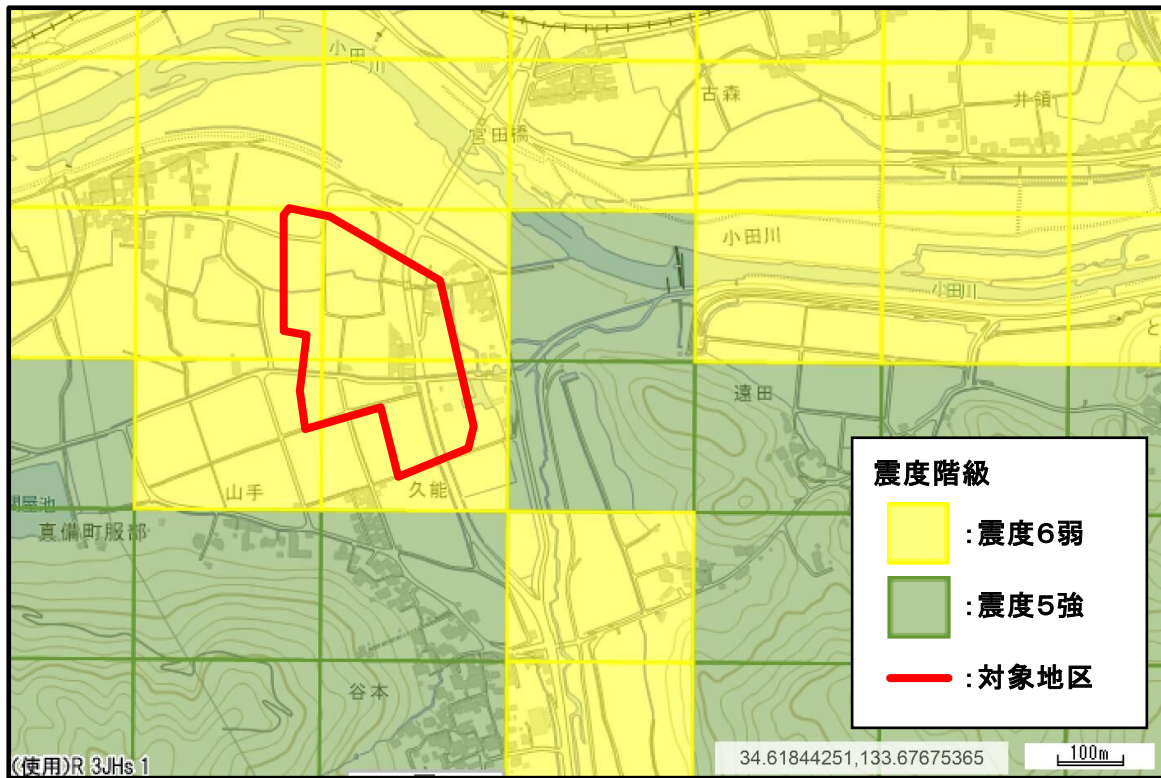
【図2】浸水想定区域図(想定最大規模降雨)



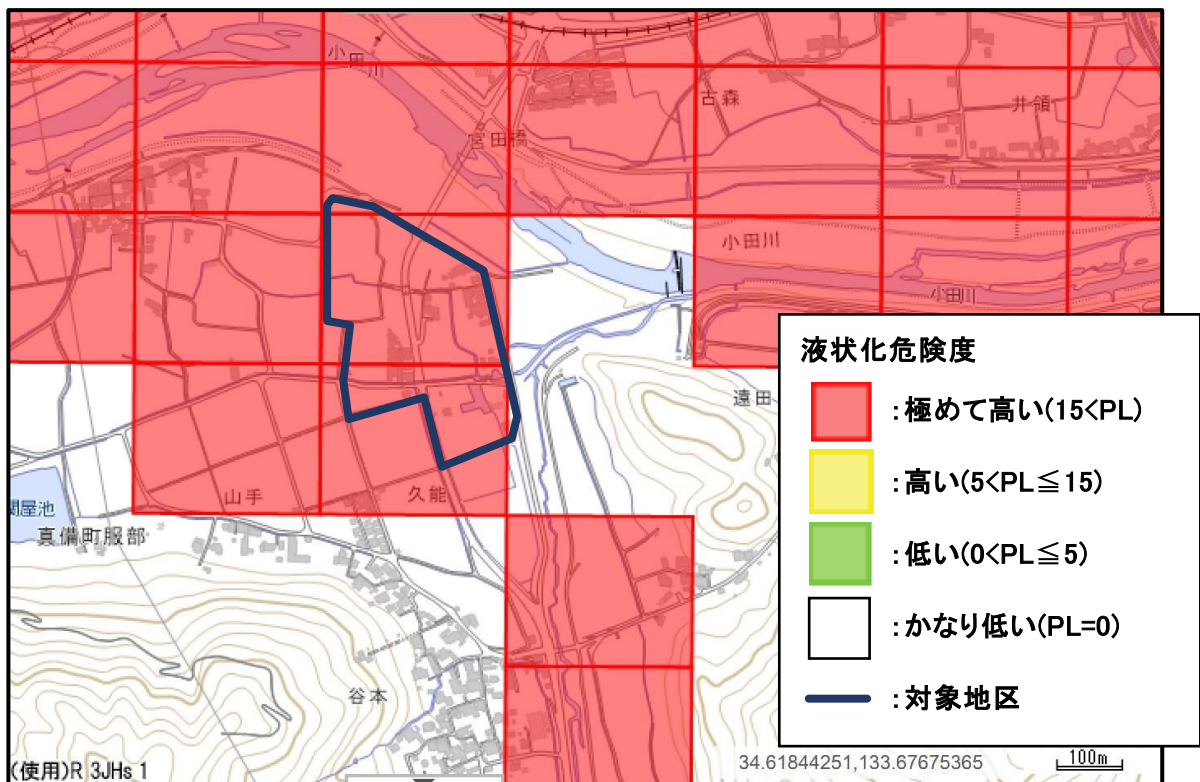
「想定最大規模降雨」とは？

「想定最大規模降雨」の降雨規模は1000年に1回程度を想定しています。1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000(0.1%)以下の降雨です。毎年の発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。

【図3】震度分布図(岡山県が平成25年2月に公表した南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.0)が発生した場合の震度を示したもの)



【図4】液状化危険度分布図(岡山県が平成25年2月に公表した南海トラフ巨大地震(マグニチュード9.0)が発生した場合の液状化危険度を示したもの)



この液状化危険度分布図は、250mメッシュの区画内の平均的な地盤データに基づき、液状化の判定をしているため、液状化危険度の「かなり低い区域(白抜き)」についても、**水田や河川の流路等を埋め立てたような場所は、水はけが悪く、液状化の危険度が高いので、注意が必要**です。

4 大雨・台風の時、どうすればよいか？

1 大雨・台風が来そう・・・どうする？

- (1) 家族で、災害が起きた時の行動(避難先・連絡方法等)を再度確認しておく。
- (2) 非常持出袋の中身を確認し、玄関などすぐに持ち出せる場所に用意する。
- (3) 自家用車のガソリンを満タンに給油しておく。
- (4) テレビ・インターネット等、複数の方法でこまめに気象情報を収集し、大雨・台風の動向に注意しておく。
- (5) 上記(4)で収集した気象情報を地区内のご近所へ伝える。
※テレビ・インターネット・ラジオなど、普段から情報収集の方法を把握しておくこと。⇒「5 防災情報の入手先」を参照

2 各警戒レベルと避難行動

警戒レベル3＝「高齢者等避難」が発令されたら

- (1) 会長は、連絡網(電話・メール・LINE)を活用し、「警戒レベル3」が発令されたことを伝達し、避難を呼びかける。また、担当する避難行動要支援者へ避難行動を確認し、移動手段がない方は、計画どおり乗り合いを実施する。
- (2) 会長は、倉敷市が開設した指定緊急避難場所を確認する。
- (3) 高齢者や障がいのある方など、避難に時間のかかる人は避難を開始する。
あなたが避難する場所(避難先は複数考えておきましょう。)
 - ・学校等の指定緊急避難場所(避難先候補: _____)
 - ・親戚・知人の家(避難先候補: _____)
 - ・その他、安全な場所(避難先候補: _____)
- (4) (3)以外の方は、いつでも避難できるよう準備する。

注意事項

倉敷市が「今後、土砂災害の危険性が高まるため、…市内全域の山沿いを対象に高齢者等避難【警戒レベル3】を発令します。」と避難情報を発令した場合、例えば、周囲に山の無い平地に住んでおり、土砂災害の危険性がない地域に住んでいる方が、この情報を受け取り避難する必要はありません。安全な場所にいる方が悪天候の中、屋外へ避難することで、かえって危険が及ぶ場合もあるため、避難情報の内容をよく確認し、避難すべきなのかどうか、判断しましょう。

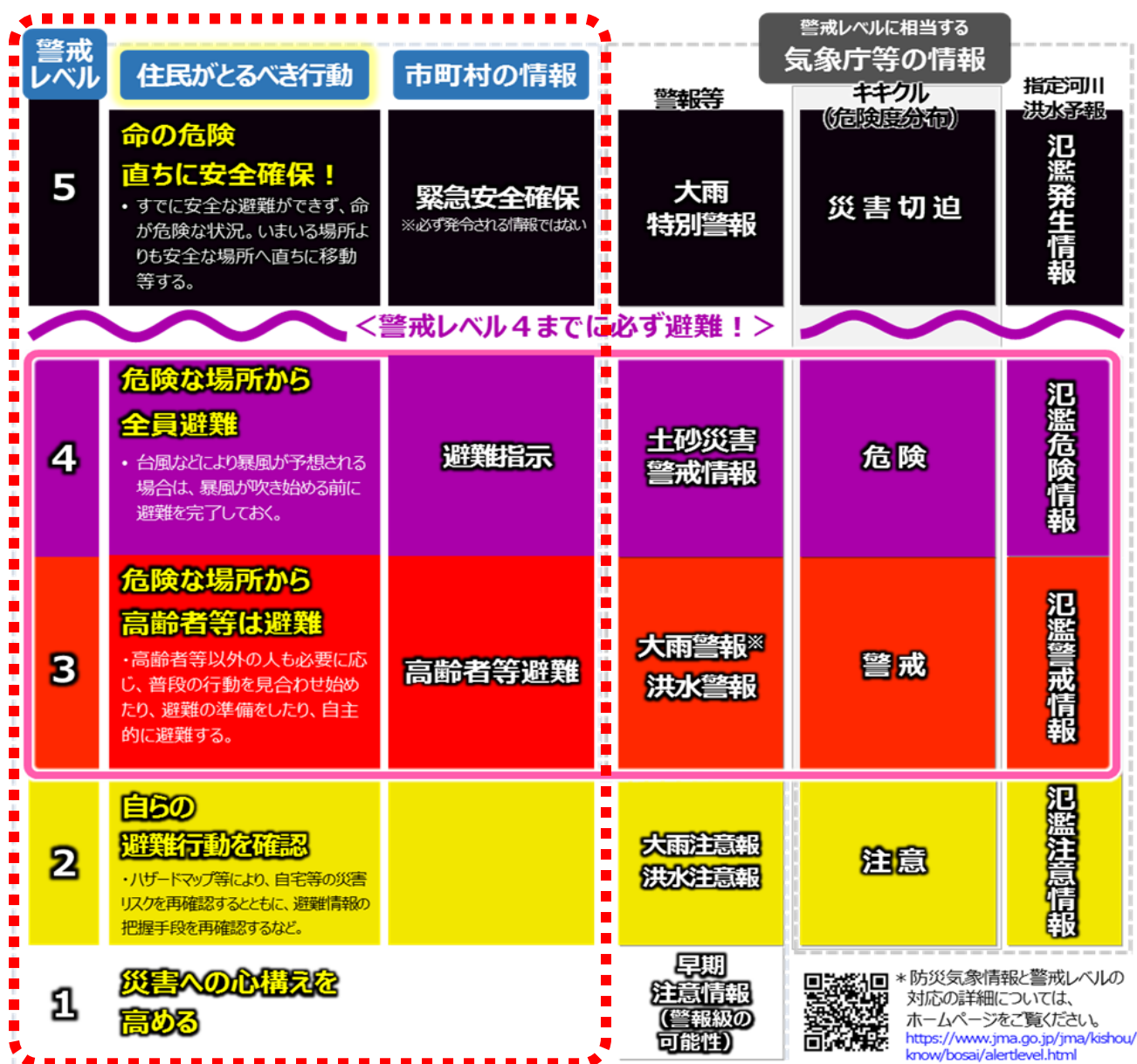
◆地区内での声掛けと要支援者の避難支援、避難時の留意事項等◆

- ・遠慮せず、「助けて！」と支援をお願いしましょう。
- ・避難を勧められたら、素直に聞き、避難しましょう。
- ・災害の危険に気が付いた人が率先して、防災情報の収集、声掛けをしましょう。

警戒レベル4＝「避難指示」が発令されたら

- (1) 警戒レベル3で避難しなかった**全員が避難する。**
- (2) 地区住民は避難後、会長へ安否情報及び避難先を報告する。

【図5】警戒レベルと住民がとるべき行動、避難情報、防災気象情報の関連図



5 防災情報の入手先

ハザードマップで確認した地区で起こりうる災害に関する避難情報、防災気象情報は、複数の手段で確認できるよう準備しておきましょう。また、河川の水位を避難スイッチとする場合は、河川に直接見に行かず、自宅建物からの視認やテレビ、インターネットなどで河川の水位を確認するなど、安全を確保できる方法で行いましょう。

1 テレビでの防災情報の入手方法

ニュース、テロップに加えデジタル放送で防災に関する様々な情報が確認できます。

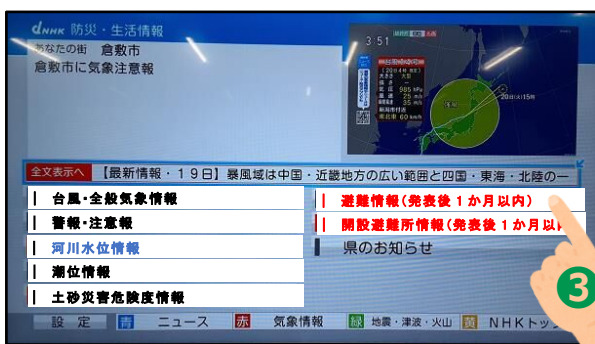


- ① NHK総合テレビにチャンネルを合わせ、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押す。
- ② リモコンの矢印で「防災・生活情報」に、合わせ、「決定」ボタンを押す。
- ③ 倉敷市から情報が発信されていれば、「避難情報」「避難所開設情報」ボタンが赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示される。情報が発信されていないときは、ボタンがグレーになり選択できません。

※気象情報や災害のおそれのある際は、河川水位情報等も確認できます。



河川水位情報



2 倉敷防災ポータルでの防災情報の入手方法

倉敷市内の防災に関する情報だけをわかりやすく確認できます。具体的には次の(1)から(5)の情報をリアルタイムで確認できます。

- (1) 緊急情報(避難情報や開設している指定緊急避難場所等)
- (2) 倉敷市からのお知らせ
- (3) 気象情報
- (4) 洪水・土砂災害想定(ハザードマップ)
- (5) 雨量や河川の水位に関する観測情報、河川ライブカメラ情報

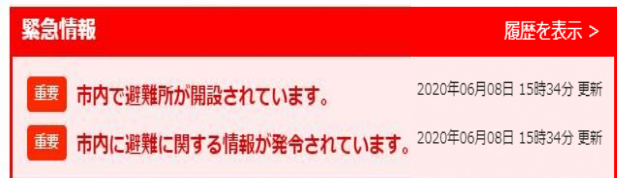
URL <https://bousai-portal.city.kurashiki.okayama.jp/>



二次元コード

倉敷防災ポータルから緊急情報を確認してみよう。

- 1 インターネットを起動
- 2 検索枠をタップ
- 3 「倉敷防災」と入力
- 4 検索目的に該当する項目をタップ
- 5 倉敷防災ポータルをタップ
- 6 現在の緊急情報が確認できる。



倉敷防災ポータルが表示される。

地図を使って防災情報を確認しましょう。



様々な防災に関する情報を地図上で確認できます。

- ① ホーム画面の地図が表示されている位置へスクロール



- ② 地図へ重ねる情報を選択「地図表示情報を変更」をタップ



確認したい情報を選択し、地図上へ表示しましょう。

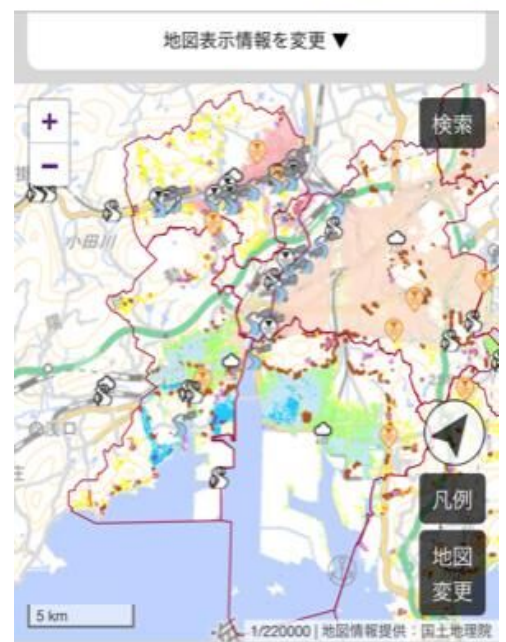
- ③ 重ねたい情報をタップ



- ④ 「地図表示情報を変更」をタップし、地図へ戻る



災害・防災情報 大きな地図で見る >



「凡例」をスクロールし、浸水想定区域の浸水深が確認できる。

ハザードマップを確認しましょう。



自宅の災害リスク(浸水想定区域の浸水深)を確認しましょう。

- ① 確認したい位置まで地図をスライド
- ② +と-で縮尺を調整
- ③ 「凡例」をタップ
- ④ 凡例をスクロールし浸水想定区域の浸水深を確認できる。



確認する位置が中央にくるようにスライド



避難先を確認しましょう。



避難場所情報一覧を表示しましょう。

- ① 各地区の防災情報へスクロール
 - ② 「▽」をタップ
 - ③ 避難場所の「-」をタップ
- 避難場所情報一覧が表示される。

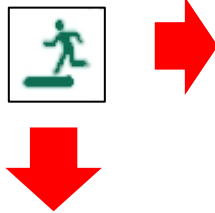


避難先を確認しましょう。



避難先の詳細な情報を確認しましょう。

- 1 確認したい位置まで地図をスライド
- 2 +と-で縮尺を調整
- 3 避難場所のアイコンをタップ



避難場所・避難所

南中学校

住所 倉敷市西富井1387

最大収容人数 400人

対象災害 土砂 洪水 地震 津波 高潮

道順検索 [Google Mapsで表示](#)

避難場所が開設するとアイコンの色が変化します。

避難場所

- 避難場所(未開設)
- 避難場所(開設)

避難場所の最大収容人数や対応している災害種別が確認できる。
※グーグルマップと連動した避難経路の確認も可能

観測情報(河川水位)や河川カメラを確認しましょう。



- 1 地図から観測情報のアイコンをタップ
- 2 河川水位をタップ 現在の河川水位を表示
- 3 河川カメラをタップ 現在の河川の静止画を表示



危機管理型水位	
倉敷市船穂町水江地先 危機管理型水位計	
水位	-5.00 m
はん濫開始水位	0 m
危険水位	-2.77 m
観測開始水位	-4.68 m
詳細	

アイコンは河川水位の上昇によって色が変わります

危機管理型水位

- はん濫開始水位超過
- 危険水位超過
- 観測開始水位超過
- 通常水位
- 欠測/閉局等



河川ライブカメラ情報

観測点名: 高梁川西阿知ライブカメラ

高梁川・岡山県道428号倉

映像先: 敷西環状線・西原グラウンド

更新日時: 2023年5月25日 木曜日 13時22分



6 地震のとき、どうすればよいか？

1 日頃の備え

(1) 情報取得手段を確認しておく。

※テレビ・インターネットなど、普段から情報収集の方法を把握しておくこと。

(2) 地震が発生した際の行動(連絡方法・避難場所等)を家族で話し合う。

(3) 家具の固定と配置の見直しを行う。

(4) 非常持出袋の場所・中身を確認し、非常備蓄品を揃える。

(5) 家屋の耐震度を確認する。

2 緊急地震速報が鳴ったら・・・身を守る行動

(1) 室内にいた場合は、机の下などにもぐり、頭を守り安全を確保する。

また、あわてて外に飛び出さない。

(2) 室外にいた場合は、建物からの落下物等に注意し、頭を守りながら安全な場所に移動する。

3 揺れが収まったら・・・火やガス、電気の始末、近所の安否確認等

(1) ドアや窓を開け、逃げ道を確保する。

(2) ガラスの破片等が落ちているので、靴やスリッパを履いて行動する。

(3) 火の使用中心なら、火を消し、ガスの元栓を閉める(※揺れが収まってから)。

(4) 出火していたら、初期消火を行う。

(5) テレビ・ラジオなどから震源、津波注意報・警報等の情報収集を行う。

(6) 避難する場合は、電気のブレーカーを切り、漏電などの火災に備える。

4 避難時に気を付けること

(1) 非常持出袋を持って避難する。

(2) 倒壊した建物や落下物、倒れそうなブロック塀や電柱などに注意する。

(3) 自家用車で避難する場合は、道路の陥没や破損、落下物により、自家用車での避難ができない可能性があることに注意する(原則として、車は使わない)。

南海トラフ地震の発生に備えましょう。

南海トラフ地震に関する情報は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、「南海トラフ地震臨時情報」と「南海トラフ地震関連解説情報」があります。「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の上にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で発表されます。

【表1】南海トラフ地震臨時情報について

南海トラフ地震臨時情報		発表条件
キーワード	調査中	・観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震警戒	・南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	・南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において、M7.0以上、M8.0未満の地震が発生したと評価した場合 ・想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生したと評価した場合 ・ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
	調査終了	・巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

「南海トラフ巨大地震」とは？

南海トラフとは、四国沖から東海沖の海底約4000mにある深い溝(トラフ)のことです。ここは、2つのプレートが衝突している場所で、非常に活発な地震発生帯となっています。これまでは、東海地震、東南海地震、南海地震の3つの震源域に分けられていましたが、東日本大震災以降、3つの震源域を含めた広範囲の場所を震源とする巨大地震のモデルが検討されました。



7 避難する場所

「避難」とは、「難」を「避」けることです。大雨（洪水）を想定した避難の場合、ハザードマップ等で自分の身が危険な場所にある場合は、より安全な場所に早めに避難することが重要です。また、新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない中、指定緊急避難場所に行くことだけが避難ではありません。災害リスク、避難する可能性の判断や家族の状況により、分散避難（避難先の多様化）も検討し、最適な避難方法を取りましょう。

主な分散避難として、指定緊急避難場所への避難のほか、在宅避難、縁故避難、宿泊施設への避難などがあります。なお、避難する際は、ハザードマップ及びその時点における周囲の状況から安全かどうか確認し、避難しましょう。

- 行政が開設した指定緊急避難場所へ避難する。
- 安全な親せき・知人宅などに縁故避難する。
- 安全なホテル・旅館などの宿泊施設へ避難する。
- 車で安全な高台や運動公園などに避難する車中避難を行う。
- 自宅などで垂直避難する。

自宅などで垂直避難する場合は、以下の3つの条件を確認しましょう。

- ①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない。
- ②浸水深より、居室が高い。
- ③水が引くまでの間、水・食料・トイレなどの備えが十分である。

なお、指定緊急避難場所は、倉敷市が避難情報（「高齢者等避難（警戒レベル3）」又は「避難指示（警戒レベル4）」）を発令した場合に、自動的に開設されるものではありません。例えば、施設近くでの土砂災害の発生や停電、断水になっている場合など、避難情報が発令されたからといって必ず開設されるものではなく、エリアメールや倉敷防災ポータルなどで、開設される指定緊急避難場所を確認しましょう。

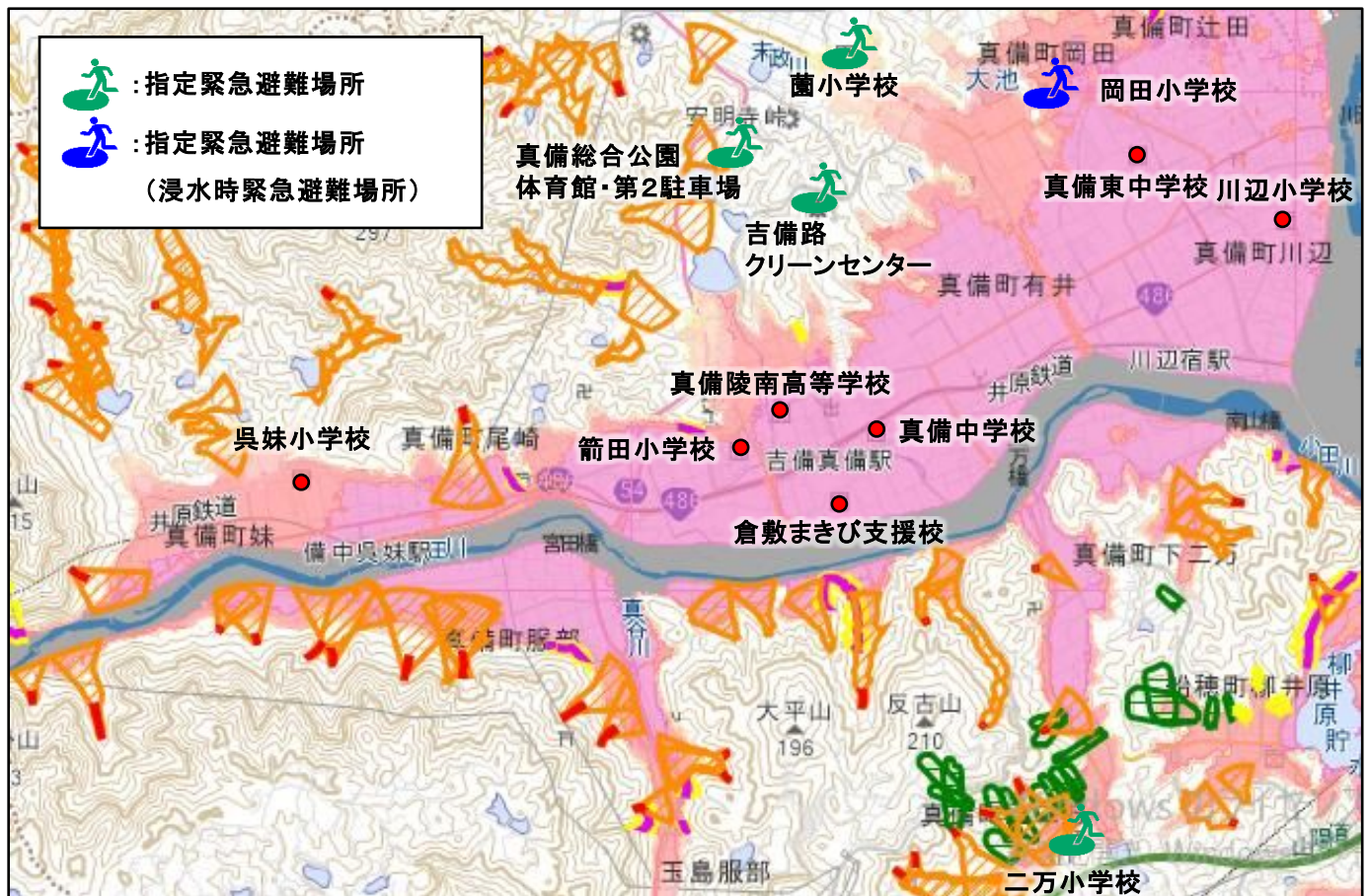
「指定緊急避難場所」とは？

災害が発生し、又は発生するおそれがある場合にその**危険から逃れるための一次的な緊急避難先**として、災害の種類ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設又は場所のことです。

「指定避難所」とは？

災害により自宅等に長期間戻ることができなくなった場合、**一時的に滞在**するための施設のことです。

【図6】浸水想定区域図(想定最大規模降雨)及び指定緊急避難場所(洪水・土砂災害)



【表2】浸水想定区域図(想定最大規模降雨)及び指定緊急避難場所

指定緊急避難場所	住所	洪水	土砂	地震
くらしき作陽大学(体育館)	玉島長尾 3515	○	○	○
二万小学校	上二万 3346	○	○	○
呉妹小学校	妹 137	×	○	○
岡田小学校	岡田 619-2	▲	○	○
藺小学校	市場 4338	○	○	○
真備総合公園(体育館・第2駐車場)	箭田 2208	○	○	○
吉備路クリーンセンター(原則、車中避難)	箭田 481	○	○	○

凡例 ○:避難可 ×:避難不可(災害の種別により安全性等の基準を満たさないため)

▲:浸水想定区域外への避難を基本としますが、そのいとまがない場合の緊急避難場所(校舎上層階等)

注意事項

真備町服部地区から真備総合公園(体育館・第2駐車場)への避難経路については、通常「県道倉敷美袋線」を通る場合が多いと思います。

しかし、この避難経路の途中には高津池と中野池の間に土砂災害の危険があるため、中野池南側からや東側市道を避難経路として検討しましょう。



8 各家庭での日頃の備え

1 非常持出品を揃えよう

非常持出品は、災害の危険が迫り自宅から避難するとき最初に持ち出すものです。避難先で2～3日間過ごす時に必要な備蓄品を非常持出袋などにまとめ、すぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。

■非常持出品チェックリスト(例)

チェック	名 称
<input type="checkbox"/>	非常食・ペットボトルの水
<input type="checkbox"/>	免許証・健康保険証・診察券・お薬手帳・証書類など
<input type="checkbox"/>	印鑑(通帳とは別々に保管)・通帳
<input type="checkbox"/>	スマートフォンなどの充電器・予備バッテリー
<input type="checkbox"/>	現金(小銭も含めて)
<input type="checkbox"/>	家・車の合鍵
<input type="checkbox"/>	筆記用具(油性ペン・ノート)
<input type="checkbox"/>	懐中電灯・電池・延長コード
<input type="checkbox"/>	FM・AM ラジオ
<input type="checkbox"/>	生理用品・マスク・アイマスク・耳栓
<input type="checkbox"/>	眼鏡・コンタクトレンズ
<input type="checkbox"/>	洗面用具(歯みがき・洗顔セット・タオル大小など)
<input type="checkbox"/>	ウエットティッシュ(アルコールタイプも)
<input type="checkbox"/>	医療品(常備薬・消毒液・ばんそうこうなど)
<input type="checkbox"/>	カイロ・防寒保温シート・うちわ
<input type="checkbox"/>	ヘルメット・防災ずきん・ホイッスル
<input type="checkbox"/>	防寒着・雨カッパ・服・下着
<input type="checkbox"/>	軍手・手袋
<input type="checkbox"/>	住所録・パスワードメモ・おやこ手帳
<input type="checkbox"/>	子どもの好きなお菓子・ジュース、大切なおもちゃ
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

2 非常備蓄品を揃えよう

大災害発生時、支援物資がすぐに届くとは限りません。コンビニなどのお店にも人が殺到し、商品がすぐなくなる可能性もあります。また、電気、水道、ガスといったライフラインは、災害発生直後は停止し、利用できなくなることを覚悟しておきましょう。

■非常備蓄品(自宅で7日間過ごす時に必要な備蓄品)

チェック	名 称
<input type="checkbox"/>	水(飲料用1日分は3L×家族の人数)
<input type="checkbox"/>	食料(インスタント・レトルト・缶詰など)
<input type="checkbox"/>	食器(スプーン・フォーク・はし・使い捨てコップ・トレイ)
<input type="checkbox"/>	ラップ・アルミホイル
<input type="checkbox"/>	ナイフ・缶切り・栓抜き
<input type="checkbox"/>	カセットコンロ・カセットボンベ
<input type="checkbox"/>	ろうそく・マッチ・ライター
<input type="checkbox"/>	アウトドア用品(テント・寝袋・ランプなど)
<input type="checkbox"/>	バーベキューセット・木炭・固形燃料
<input type="checkbox"/>	梱包用ひも・風呂敷
<input type="checkbox"/>	はさみ・カッター・布製ガムテープ
<input type="checkbox"/>	マスク・手指消毒液・体温計
<input type="checkbox"/>	裁縫セット
<input type="checkbox"/>	着替え
<input type="checkbox"/>	洗面・風呂セット
<input type="checkbox"/>	段ボール箱
<input type="checkbox"/>	ビニール袋・ごみ袋
<input type="checkbox"/>	新聞紙
<input type="checkbox"/>	トイレtpペーパー・簡易トイレ
<input type="checkbox"/>	ポリタンク(給水用)
<input type="checkbox"/>	台車・カート(飲料水などの運搬用)
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

9 緊急連絡網

次の場合、緊急連絡網を使用し、直接声掛け又は電話等で連絡を取り合います。

- ・用水路が増水し、氾濫する恐れがある時及び氾濫している時
- ・小田川又は真谷川が氾濫のおそれがある時（高齢者等避難（警戒レベル3）、避難指示（警戒レベル4）の避難情報が発令された時）
- ・安否確認をする時（無事避難先に避難した時には、世帯主は地区代表者又は副代表者へ連絡する。）

緊急時連絡先（行政機関）

No.	行政機関名	内容	電話番号
1	倉敷市消防局	人的被害	119
2	真備支所・市民課	指定緊急避難場所に関する事	086-698-1111
3	真備支所・建設課	道路被害など	086-698-8108
4	真備支所・産業課	用水路被害など	086-698-8112
5	防災危機管理室防災推進課	災害時の避難情報など	086-426-3131
6	岡山県警察本部		110

10 防災訓練

毎年実施される「倉敷市総合防災訓練」や地区での恒例行事（地区清掃、祭り等）と合わせ、避難訓練を実施しましょう。また、毎年、年末には1年間の活動を通じ、防災訓練や平常時の活動の振り返りを行い、地区防災計画の見直しを実施しましょう。

- ・どこに、どうやって避難するかを平常時にしっかり把握しましょう。
- ・避難経路を決める際、実際に歩いて危険箇所等を確認しましょう。
- ・高齢者や子ども等の目線で歩き、違った危険がないか確認しましょう。

防災訓練の例

- (1) 情報収集・伝達訓練 (2) 避難誘導訓練 (3) 初期消火訓練
(4) 避難所運営訓練 (5) 炊き出し訓練 など

